

製糸業の立場から

元日本製糸協会 工務専門委員長 大 槻 智

1. は じ め に

我が国蚕糸業の企業的経営は存亡の危機 ～ 様変わりした蚕糸情勢。

＜外的動向＞

◎国際蚕糸情勢の変化に伴う競争力の低下

生産数量（94年、世界対日本のシェア） 繭＝0.8% 生糸＝4.1%
価 格（95年、中国に対して） 繭＝約5倍 生糸＝2～2.5倍
生糸品質 90年(H.2)以降海外産生糸の品質向上（特にブラジル産生糸）

＜内的動向＞

◎繭・生糸生産量の大巾減少と経営の不採算

- (1) 繭生産量は、20年前の6%、10年前の11%、5年前の22%に減少
- (2) 生糸生産量は、" 15%、" 33%、" 51%に減少
- (3) 採算状況

養蚕～生繭1Kg当り物材費 約1,200円、労働収入 約400円、1tの繭生産量で約40万円の労働収入では……？。

製糸～糸価の低迷、コスト引下げならず、近年は連続的に不採算。

（参考資料～別表・1 近年製糸業の推定採算表）

(4) 蚕糸体制の経過と反省

- ① 繭・生糸共に価格対策と一元輸入制度を基本とした体制と構造で推移。
- ② 高品質化、低コスト化等に関する蚕糸科学と技術革新の停滞。
- ③ 昭和50年代以降は、かつてのフランス蚕糸業の衰退と同様の経過を辿って今日に至っている。
- ④ 反省と決断のとき～蚕糸関係者特に製糸企業経営者は、蚕糸業の現状と将来を国際的視野で眺め、企業原理と自主独立の道を自覚した上で、官学界等の支援も求め生きる道を模索したいと願う。

2. 当面の製糸技術経営上の問題点

◎製糸業存続に必要な三つの課題

- (1) 原料繭の量・価格・質の問題 ～ 必要量の確保, 適正価格, 良質
- (2) 生糸製造販売費（加工費）の問題 ～ 低コスト化 … 徹底した合理化
- (3) 生糸販売価格の問題 ～ 高品質, 差別化 … 高価値化

3. 生糸製造販売費調査からみた低コスト化の検討

〈直近10ヶ年の生糸製造販売費の分析から〉～ 別表2及び3

(1) 製造販売費合計額（副収入は差し引かない額）別費用の内容～表・2

- ① A区（3,000円以下）は、全費目にわたり費用が少ない。
- ② D区（4,000円以上）は、全費目にわたり費用が多い。特に、額的には労務費が極めて多く次いで経費、支払利子、材料費、管理販売費の順に多い。
- ③ 工場間又は年度によりかなりの差があり、或いは特殊事情もあるかと思われるがA区へ向っての研究努力が望まれる。

(2) 生産規模別製造販売費の比較～表・3

総括して生産規模別の特性は特定し難いが、2,000俵以上の生産工場は以下の工場に比較してコストがやや低いと言える。又、A・B区のコスト高は材料費と支払利子の割高性が影響している。

費目中最大のウェイトを占める労務費については、生産規模の関連が表れていないが操業条件・原料条件・生産生糸品質の差異・その他諸々の要因が関与していると考えられる。

- ◎ (1)・(2) 総合して高コスト工場のコスト引下げは、労務費を最重点として各費目について工場毎にきめ細かい点検改善を実行する以外ない。

国際競争時代に対応する為には徹底したローコスト化を追求すると共に、高品質や特殊生糸生産等により製品価値を高めて収益の拡大を計り、最終的に各社工場が特徴ある経営体制を確立されることを願って止まない。

表・1

近年製糸業の推定採算

(27中3A格基準・生糸1Kg当り)

項目 生糸年度	繭種別	購入繭量 (生繭) (t)	比率 (%)	標準 買入掛目 (掛)	横神現物 平均糸価 (円)	取得 加工費 (円)	実績 加工費 (円)	取得加工費と実績 加工費の差 (円)
S.63	国産	29.369	96	11.101				
	輸入	1.220	4	11.500				
	計・平均	30.535	100	11.117	13.921	2.804	2.869	- 65
H. 1	国産	26.612	89	13.067				
	輸入	3.415	11	9.800				
	計・平均	30.027	100	12.706	15.080	2.372	3.349	- 977
H. 2	国産	24.740	88	9.709				
	輸入	3.300	12	9.800				
	計・平均	28.040	100	9.720	12.560	2.840	3.445	- 605
H. 3	国産	20.666	86	10.034				
	輸入	3.478	14	6.400				
	計・平均	24.144	100	9.525	11.775	2.250	3.566	1.316
H. 4	国産	15.433	70	8.898				
	輸入	6.732	30	5.630				
	計・平均	22.165	100	7.918	10.910	2.992	3.704	- 712
H. 5	国産	11.140	63	8.548				
	輸入	6.663	27	3.990				
	計・平均	17.803	100	6.463	8.704	2.241	3.867	-1.626
H. 6	国産	7.686	39	7.647				
	輸入	11.870	61	3.900				
	計・平均	19.556	100	5.322	6.785	1.463	3.377	-1.914
H. 7	国産	5.318	47	6.584				
	輸入	5.880	53	3.200				
	計・平均	11.198	100	4.798	6.940	2.142	3.242	-1.100

(注)

1. 購入数量：国産繭は各年度の生産（糸繭）数量。輸入繭は各生糸年度内の受け入れ数量で乾繭を生繭に換算した数字である。
2. 標準買入掛目：国産繭・輸入繭共に繭価協定により決定された標準掛目である。従って実際の取引掛目とは異なる。
3. 実績加工費：日器工生糸製造販売費調査による27中3A格基準の、副収入差し引きの加工費である。

直近 10 年間の生糸製造販売費の分析
(昭和 61 年度～平成 7 年度間・日器工調査より→延 127 工場)

表・2-1 製造販売費合計額別費用の内容

※ 製造販売費合計額（輸入は計外）の区別

A 区	2. 999 円以下	C 区	3. 500～3. 999 円
B 区	3. 000～3. 499 円	D 区	4. 000 円以上

(27中3A格・1Kg当り/円)

区 別	工場数(比率)	材料費	労務費	経 費	一般管理 販売費	支払い 利 子	製造販売費 合 計 ①	副収入 ②	副収入差引 製造販売費 ①-②=③	1工場当り 年間生糸 生産数量
A	16(126%)	652	1.033	628	231	228	◎ 2.742	412	◎ 2.330	1.976
B	30(236%)	791	1.260	731	289	242	○ 3.313	387	○ 2.926	1.806
C	37(291%)	778	1.327	827	390	368	△ 3.690	454	△ 3.236	2.064
D	44(347%)	897	1.572	989	448	568	▲ 4.474	576	▲ 3.898	1.520
計・平均	127(100%)	806	1.355	835	366	390	3.752	475	3.277	1.804
①を100とした比率(%)		21.5	36.1	22.2	9.8	10.4	100	12.7	87.3	-
②を100とした比率(%)		24.6	41.3	25.5	11.2	11.9	114.5	14.5	100	-

表・2-2 上表の「A区」を基準とした増減額と比率

増減額 (円)	A	0	0	0	0	0	◎ 0	0	◎ 0	0
	B	+139	+ 257	+103	+ 58	+ 14	○+ 571	- 25	○+ 596	- 170
	C	+126	+ 324	+199	+159	+140	△+ 948	+ 42	△+ 906	+ 88
	D	+245	+ 569	+361	+217	+340	▲+ 1.732	+164	▲+1.568	- 456
	平均	+154	+ 352	+207	+158	+162	+ 1.010	+ 63	+ 947	- 173
比 率 (%)	A	100	100	100	100	100	◎ 100	100	◎ 100	100
	B	121	126	116	125	106	○ 121	94	○ 126	91
	C	119	132	132	169	161	△ 135	110	△ 139	104
	D	138	157	157	194	249	▲ 163	140	▲ 167	77
	平均	124	135	133	158	171	137	115	141	91

* 上下表とも、網かけ数字の欄が要検討費目と考えられる。

表・3-1 生産規模別生糸製造販売費の比較

※ 生産規模の区別（年間1工場当り生糸生産俵数）

A区	999俵以下	D区	2.000～2.499俵
B区	1.000～1.499俵	E区	2.500～2.999俵
C区	1.500～1.999俵	F区	3.000俵以上

(27中3A4・1Kg当り/円)

区別	工場数(比率)	材料費	労務費	経費	一般管理販売費	支払い 料子	製造販売費 合計 ①	副収入 ②	副収入差引 製造販売費 ①-②=③	1工場当り 年間生糸 生産俵数
A	28(22.0%)	894	1.347	867	381	424	3.913	454	3.459	765
B	38(29.1%)	884	1.344	825	329	433	3.815	524	3.291	1.233
C	15(12.6%)	606	1.381	915	478	321	3.701	405	3.296	1.719
D	11(8.7%)	746	1.376	752	385	280	3.539	378	3.161	2.230
E	15(11.8%)	833	1.387	752	303	367	3.642	471	3.171	2.778
F	20(15.8%)	714	1.331	856	367	381	3.649	524	3.125	3.414
計・平均	127(100%)	806	1.355	835	366	390	3.752	475	3.277	1.804

表・3-2 上表の「計・平均」を基準とした増減額と比率

増減額 (円)	A	+ 88	- 8	+ 32	+ 15	+ 34	△ + 161	- 21	△ + 182	-1.039
	B	+ 78	- 11	- 10	- 37	+ 43	+ 63	+ 49	+ 14	- 571
	C	-200	+ 26	+ 80	+112	- 69	- 51	- 70	+ 19	- 85
	D	- 60	+ 21	- 83	+ 19	-110	○ - 213	- 97	○ - 116	+ 426
	E	+ 27	+ 32	- 83	- 63	- 23	○ - 110	- 4	○ - 106	+ 974
	F	- 92	- 24	+ 21	+ 1	- 9	○ - 103	+ 49	○ - 152	+1.610
	平均	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比 率 (%)	A	111	99	104	104	109	△ 104	96	△ 106	42
	B	110	99	99	90	111	△ 102	110	100	68
	C	75	102	110	131	82	99	85	101	95
	D	93	102	90	105	72	○ 94	80	○ 96	124
	E	103	102	90	83	94	○ 97	99	○ 97	154
	F	89	98	103	100	98	○ 97	110	○ 95	189
	平均	100	100	100	100	100	100	100	100	100

* 上下表とも、網かけの数字は、平均より多い数字である。